

3. 胚培養によるユリ新品種アルテミス (仮称) の育成 (技術)

[要約] シンテッポウユリにル・レーブを交配して子房培養及び胚培養した個体群から、花色が白地に紅色の筋の新品種アルテミス (仮称) を育成した。

研究室名	野菜・花研究室	連絡先	0869-55-0277
------	---------	-----	--------------

[背景・ねらい]

主要品種の一つであるシンテッポウユリは生育旺盛で種子繁殖が可能なため種苗費が少なくすむが、花の色は白色一色である。一方、花色の豊富なオリエンタル系ユリは、球根養成に数年の栽培を必要とするため、球根の価格が高く、切り花栽培農家の経営において、種苗費の占める割合が大きい。

そこで、胚培養を用いて、生育旺盛なシンテッポウユリと豊富な花色を持ったオリエンタル系ユリとを交雑し、球根養成期間が短く、既存の品種にない花色や花形を持つ品種を育成する。

[成果の概要・特徴]

1. 育成経過

平成 5 年 7 月及び 8 月に子房親；シンテッポウユリ (品種 中生あさま) と花粉親；ル・レーブを交配した。平成 5 年 8 月に肥大した子房を培養し、平成 5 年 9 月に培養した子房から胚を摘出して培養した。平成 6 年 4 月及び 6 月に生育した 8 個体を鉢上げしたところ、平成 7 年 7 月 9 日に初開花した。アフロの姉妹品種である。

2. 品種特性

- (1) 山陽町での雨除け栽培では、アフロの 6 月上旬咲きに対して、6 月下旬咲きの中生種である。
- (2) 花は横向きの極大輪種 (22~24 cm) で、アフロのピンク色に対して、白い花弁の中央に紅色の筋が入る。
- (3) アフロと同様に、花弁は厚くて乱れが少ない。
- (4) アフロと同様に、茎は緑色で堅い。葉はアフロに比べて細長い。
- (5) アフロと同様に、リン片挿し苗や極小球でも 1 年で開花するので球根養成の必要がない。

3. 市場評価

- (1) 和花の雰囲気を持っていて、見ていて可愛い、心が癒やされる、落ち着いた感じのするユリである。
- (2) 紅色の筋の入りが程よくて他にはないユリである。
- (3) 巨大輪での出荷が望ましい。

[成果の活用面・留意点]

1. アブラムシ、ネダニ、チビクロキノコバエ、フザリウム防除を徹底する。
2. 球根栽培、リン片挿し栽培とも季咲き作型では良好な切り花が得られる。
3. 球根促成栽培では到花日数が長いのでは適していない。
4. 球根抑制栽培等のその他の栽培試験は現在実施中である。
5. 品種登録を申請中である。

[具体的データ]

表 1. アルテミスとアフロの特性

系統名	開花時期	草丈	茎丈	茎径	茎色	葉数	葉序	葉型
アルテミス(球根)	6月下旬	98cm	83cm	6.1mm	緑	37	3/8	長楕円形
アルテミス(リン片)	7月初旬	141	114	6.0	緑	29	3/8	長楕円形
アフロ(球根)	6月上旬	164	140	7.7	緑	67	3/8	広披針形
アフロ(リン片)	6月中旬	121	98	5.0	緑	38	3/8	広披針形

系統名	花径	花弁長	花首長	花形	花の向	花色	斑点	輪数	花序
アルテミス(球根)	22cm	14.8cm	7.5cm	ヤマユリ型	斜上	白に紅筋	無	3	散形花序
アルテミス(リン片)	18	13.0	7.0	ヤマユリ型	横～斜上	白に紅筋	無	5	散形花序
アフロ(球根)	24	16.2	10.0	ヤマユリ型	斜上	ピンク	無	5	散形花序
アフロ(リン片)	19	15.0	8.0	ヤマユリ型	横～斜上	ピンク	無	5	散形花序

山陽町で、無加温雨除け栽培した。



図 1. アルテミス（仮称）

[その他]

試験研究課題・事業名：バイオテクノロジー利用による地域特産品種の育成とクローン種苗大量増殖法の確立

予算区分：県単

研究期間：昭和 60 年度～

関連事項：なし